



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	シングルマザーの健康とエイジェンシー：子どもへの追加的なケアに着目して [全文の要約]
Author(s)	江, 楠
Description	この博士論文全文の閲覧方法については、以下のサイトをご参照ください。 https://www.lib.hokudai.ac.jp/dissertations/copy-guides/
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(教育学)
Dissertation Number	甲第16310号
Issue Date	2025-03-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/95336
Type	doctoral thesis
File Information	JIANG_Nan_summary.pdf



学位論文内容の要約

博士の専攻分野の名称：博士(教育学)

氏名：江 楠

学位論文題名

シングルマザーの健康とエイジェンシー
ー子どもへの追加的なケアに着目してー

本研究の目的は、シングルマザーがケアを遂行する過程において、どのようにエイジェンシー（主体的な行動や選択）を発揮しているのかを、シングルマザー自身の健康状態および子どもへの追加的なケアに着目して明らかにすることである。具体的には、日常生活に困難や悩み事がある場合、さらには緊急時の状況において、必要とされるソーシャルサポートをシングルマザーがどのように選択し、活用しているのかを分析する。また、「利用したいが利用できない」あるいは「利用可能であるがあえて利用を控える」といった選択プロセスを通じて、シングルマザーが直面する制約の中でどのように選択や行動を行い、生活を維持しているのかを明らかにする。

これまでの研究では、主にシングルマザーが直面する経済的困難や、就労と子育ての両立の難しさが注目されてきた。また、母子世帯においては経済的問題や資源不足が顕在化し、シングルマザーがエイジェンシーを発揮する際に様々な制約を受けることが指摘されている。しかし、シングルマザー自身の健康状態が悪化して就労や子育てなど生活に支障がある場合、また、子どもが追加的なケアを必要とする場合、家庭内の困難がさらに複雑化することが考えられる。そこで、本研究では、既存の研究に基づき、ケア遂行能力の低下と家庭内ケア負担の増加に着目し、シングルマザーがどのようにエイジェンシーを行使し、生活を成り立たせているのかを明らかにする。それにより、最も困難な状況に置かれた母子世帯が抱える具体的な課題やシングルマザーの葛藤を深く理解することができ、今後の支援策の改善や支援の質の向上に寄与する知見を提供できる。

以上の目的を明らかにするために、本研究では、量的データおよび質的データを組み合わせ、二つの調査データを基に分析を行った。一つは、2017年に北海道保健福祉部子ども未来推進局子ども子育て支援課が北海道大学大学院教育学研究院に委託して実施した「北海道ひとり親家庭生活実態調査」のデータを用いた二次分析である。もう一つは、筆者がA市の母子支援団体を通じて行ったインタビュー調査であり、この調査は、ひとり親家庭学習支援ボランティア事業を利用する、ひとり親になった時点で未成年の子どもを育てているシングルマザーである。

本研究は、序章と終章を含め、全体で7つの章で構成した。

序章では、本研究の目的、背景、および意義について述べる。特に、最も困難な状況で

ある母子世帯、いわゆるシングルマザーの健康と子どもへの追加的なケアに焦点を当て、母子世帯の困難とシングルマザーが抱えている葛藤を把握する必要性を提示した。また、ソーシャルサポートの利用状況を通じてシングルマザーのエイジェンシーを捉える方法についても述べた。さらに、本研究における「追加的なケア」の定義を説明している。追加的なケアは子どもが発達障害を持つ場合や、不登校や心身的健康に問題がある場合に、シングルマザーが基本的な育児や教育に加えて、特定のニーズや状況に応じた追加のサポートやケアを提供することと定義した。

第1章では、先行研究の整理を通して、本研究の研究上の位置づけを提示する。まず、母子世帯が直面している経済的困難、資源不足、健康問題といった課題に関する既存研究を検討した。その中でも、特にシングルマザーの健康状態と子どもへの追加的なケアに焦点を当て、これらの要因がもたらす具体的な困難や葛藤について理解を深める必要性を提示した。次に、シングルマザーのエイジェンシーに関する実証研究の不足に着目し、彼女たちが主体的な行動や選択を通じて困難に対処するプロセスを分析する視点の重要性を示した。このように先行研究の課題を整理することで、本研究は以下の視点を明確にした。第一に、シングルマザーの健康状態が悪化している場合や、子どもが追加的なケアを必要とする場合に焦点を当て、これらの状況が生活に与える影響を考察すること。第二に、困難や悩みに直面した際に、シングルマザーがソーシャルサポートをどのように選択・利用しているのかを分析し、その過程を通じて彼女たちの主体的な行動や選択の特徴を明らかにすることである。

第2章は、「北海道ひとり親家庭生活実態調査」のデータ分析をもとに、年齢・社会経済状況からシングルマザーの身体的・精神的健康を確認した結果、加齢や経済的困難を抱えるシングルマザーほど健康問題を抱える割合が高いことが明らかになった。特に、働いていないシングルマザーや「中学卒業」「高校中退」の学歴を持つシングルマザーでその傾向が顕著であり、精神的健康の指標であるK6得点が10点以上の割合も高かった。そして、北海道のシングルマザーは、全国平均（2019年国民生活基礎調査における女性）と比較して、社会経済状況や年齢層にかかわらず、身体的および精神的健康において不調の傾向が強かった。これにより、母子世帯において、社会的経済状況と健康問題の二重の負担を抱えるシングルマザーが一定数存在することが確認された。

第3章は、「北海道ひとり親家庭生活実態調査」のデータ分析をもとに、親からの支援の有無に応じてグループ分けを行い、母子世帯にけるソーシャルサポートの利用状況を確認した。まず、親からの援助が重要な役割を果たしている一方で、親や他者からの支援が得られない世帯が一定数存在することを明らかにした。多くの母子世帯が情緒的サポートでは家族以外の支援を受けるが、手段的サポートにおいては主に家族に依存しており、外部の支援制度や非親族の利用は少ない。さらに、経済的困難と緊急時の支援者の欠如が重なる世帯が存在し、これらが母子世帯の生活基盤を脅かしていることが示唆された。さらに、自由回答の分析から、母子世帯が家事、子育て、仕事における手段的サポートをめぐ

る葛藤や、限られたソーシャルサポートへの依存の中で援助を求めている実態が見受けられた。また、親の介護や障害のある子どもの世話、将来に対する不安など、複合的な困難を抱えるシングルマザーも多いことが確認された。

第4章では、本研究で使用しているインタビューデータの調査概要の説明と調査協力者の属性を整理している。子育て期におけるケアニーズがより多い時期、生活上で悩みや困難を発生しやすく、サポートを求められやすい時期と考えられるため、調査は、ひとり親になった際に未成年の子どもを育てているシングルマザー22名を対象としている。また、調査は、北海道大学大学院教育学研究院における人間を対象とする研究倫理審査と承認を得たものである。

調査結果をもとに、シングルマザーの健康に関する葛藤と困難について、ひとり親になることで、自身の心身の健康が悪化する影響が確認された。また、子どもの不登校や健康問題が、シングルマザー自身の健康にさらなる負担を与えることが明らかとなった。シングルマザーの健康が子どもの健康に影響を与え、逆に子どもの健康状態がシングルマザーの健康に影響を及ぼす、相互的な関係性が見られた。子どもの追加的なケアに関する葛藤と困難については、子どもの追加的なケアは、経済的負担を増大させる要因となる。また、医療機関や療育機関への通院において、就労との両立が困難を引き起こし、シングルマザーに大きなストレスを与えることが確認できた。さらに、発達障害を抱える子どもが母親からケアを受けていることを理解できない場合や子どもから暴力を受ける場合も発生し、シングルマザーの心理的負担が増すことが確認できた。そして、社会的には、追加的なケアを必要とする子どもを持つ親への偏見が存在し、これがシングルマザーの孤立感やストレスを強めることが見受けられた。また、追加的なケアが必要な子どもへの対応において、「申し訳なさ」や過剰な心配を感じるシングルマザーが多く、追加的なケアが必要な子どもに注目することで、ほかの子どもへの配慮が不足し、きょうだい児に影響を与えることも指摘された。シングルマザーはひとり親であることへの自己責任感・自己反省についてである。シングルマザーは、ひとり親であること自体への自己責任感や自己反省に直面し、これが心理的負担をさらに増加させることが確認された。

第5章では、インタビュー調査の結果をもとに、シングルマザーは「ひとり親になった直前・直後」と「ひとり親になってから・現在」にソーシャルサポート(情緒的サポート・手段的サポート)の利用状況を確認した。その上で、日常生活における困難や悩みを明らかにし、また困難や悩みを抱えた際、シングルマザーがどのような優先順位を設定し、いかなる選択を行っているのか、また何を犠牲にしているのかを具体的に分析し、シングルマザーのエイジェンシーを検討した。

まず、手段的サポートについては、ひとり親になった直後の時期には、手段的サポートが不足している世帯が多い傾向が見られた。しかし、時間の経過とともに「特に必要はない」と回答するシングルマザーが増加した。これは、子どもの成長によりケアのニーズが減少することや、最も困難な時期を乗り越え生活が安定してきたことが要因と考えられる。

また、情緒的サポートについては、ひとり親になった直後に最も多く利用される傾向があったが、時間の経過とともに減少した。これは、シングルマザー自身が困難を乗り越える傾向を反映していると考えられる。そして、子どもの追加的なケアが必要な場合、専門的な支援機関への信頼感が高く、公的機関や医療機関（精神科や発達支援センター）を利用するシングルマザーが多い傾向があった。

各グループにおけるシングルマザーのエイジェンシーを検討すると、グループ1には、シングルマザー自身の健康と子どもへの追加的なケアが重なる不利な状況でも、経済的に余裕があり、かつ親族的なネットワークを活用できる場合、困り事や不安に対処する方法として、仕事の時間を調整することで、エイジェンシーがよりよく発揮される。一方で、経済的な状況が厳しく、利用できる親族ネットワークがない場合、あるいは選択肢が限られている場合、子どものケアや教育費のために自身の健康を犠牲にすることがあり、エイジェンシーがより不利になる可能性がある。

グループ2には、シングルマザー自身の健康が不調であり、子どもに追加的なケアが不要な場合、同居家族がいるため手助けを受けやすい状況にある。しかしながら、逆に精神的な負担が発生する可能性もある。その際、シングルマザーは自身のニーズ（精神的な負担）を犠牲にして、家計や時間を調整し、対処していく。一方、子どもには追加的なケアが不要な場合でも、緊急事態（子どもの入院または自分自身の病気）が発生した際に、公的サポートや私的サポートを活用できず、他のケアが必要な子どもの世話を犠牲にして、緊急事態に対処することもある。

グループ3には、シングルマザー自身が健康であり、子どもの健康や障害、不登校などの問題に積極的に情報を収集し、公的支援制度や専門機関と積極的に連絡を取ろうとする姿勢が見られた。しかし、最終的には問題を解決できず、最も悩んでいた様子が見られた。また、親族ネットワークを活用できる場合、子どもの追加的なケアを分担できることが確認された。

グループ4では、シングルマザー自身の健康状態が良好であり、子どもにも追加的なケアが必要ない状況であった。ひとり親家庭になった直前・直後には、子育てや経済面で最も支援が必要な時期に、親族からのサポートや公的制度を利用していた。ひとり親家庭になってから・現在は、子育て、就労、経済的な面において特に困り事や悩みがない様子が見られた。

終章では、第2章から第5章までの分析結果を総括し、母子世帯が抱える複合的な困難と不利の特徴を明らかにした。特に深刻な困難に直面している母子世帯に焦点を当て、彼女たちが抱える課題や葛藤を再整理した。また、ソーシャルサポートの選択や利用状況を通じて、シングルマザーのエイジェンシーを確認した。

シングルマザーのエイジェンシーの発揮を確認したところ、外部の制度や支援政策の制約以外に、家庭内の資源や健康問題の制約が影響していることが見受けられた。具体的にみると、利用できるソーシャルサポートに関わらず、困り事や悩みがある時に、親をはじ

めとする親族ネットワークを利用する傾向があった。親の支援がある世帯、子育てサポートや経済的支援があり、そのために就労などの時間が確保され、生活上の問題や悩みを一定程度緩和できる可能性がある。

また、経済状況がシングルマザーのエイジェンシーを制約する要因であることが示された。経済的に余裕がある場合、緊急時の対処が適切に行える様子が見受けられた。家事や育児など有料のサービスを利用するなど、公的ネットワークを調べる余裕があり、効果的に利用する世帯もいた。緊急事態などに適切なアプローチをすることが可能である傾向があったが、主に子どものケアを中心に、自身の仕事の時間などを調整することで対処しているケースが見られた。そして、経済的に余裕がない、また公的サポートと私的サポートが利用できない世帯における、子どものケアやニーズに応じて、シングルマザーは自分の健康を犠牲にすることがあった。具体的には、お金を節約するために自分の健康状態が優れなくても受診しない、また収入を増やすためにダブルワークし、就労時間を増やすなどの行動が見られた。これにより、利用できるサポートの不足を補う傾向があった。その結果、精神的または身体的な健康状態がさらに悪化し、就労できなくなった世帯もあった。

さらに、ソーシャルサポートが利用できない場合、一部のシングルマザーは自身のニーズを後回しにせざるを得ず、時にはケアが必要な子どもへの世話すら犠牲にする状況が確認された。多くのシングルマザーはエイジェンシーを発揮する過程で、子どものニーズ（追加的なケアや教育費など）を最優先し、自身のニーズを犠牲にする傾向が顕著であった。特に、シングルマザー自身の心身の健康が悪化している場合や、子どもに追加的なケアが必要な状況が重なると、その傾向はさらに強まることが確認された。このような状況は、シングルマザーが親としての責任を強く意識していることを示す一方で、限られた資源の中で自身の健康管理や必要な支援を受ける機会を喪失する要因となる可能性がある。